

令和 6 年 9 月 20 日現在

機関番号：24405

研究種目：国際共同研究加速基金（国際共同研究強化(B)）

研究期間：2018～2023

課題番号：18KK0029

研究課題名（和文）東シナ海島嶼をめぐるトランスボーダー地政学の構築

研究課題名（英文）The Construction of Trans-Border Geopolitics of East-China-Sea Islands

研究代表者

山崎 孝史（Yamazaki, Takashi）

大阪公立大学・大学院文学研究科・教授

研究者番号：10230400

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 12,900,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、2018年から、東シナ海島嶼地域における、社会経済的変動と域内各国・地域での国境管理や領土防衛政策の変化を把握し、国際緊張緩和を展望する「トランスボーダー地政学」を構築すべく、日本ほか4か国の国際共同研究者とともに、研究を推進してきた。2019年11月に最初の国際会議を開催したが、コロナ禍により約2年間十分な活動が展開できなかった。しかし、研究期間を2023年4月から一年間延長した結果、国際共同研究者の協力を得て、2度目の国際会議の開催（23年4月）、英文国際誌特集2件の刊行と投稿（いずれも24年3月）、英文書籍の刊行準備などの国際的な研究成果の公開（準備）を進めることができた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は、東シナ海島嶼地域を対象に、国家中心主義的な地政学的思考に基づく国境管理政策に対して、国境島嶼を領土ごとに分断せず、大陸や隣国島嶼との社会経済的「関係性」の観点からとらえ直し、新しい地域理解の枠組みの構築に尽力した。具体的にはオルタナティブ地理学東アジア地域会議地政経済ワークショップ（2019年）および国際地理学連合テーマ会議（2023年）、国連社会開発研究機構による「環境と平和ネクサス—境界地域における平和構築」国際会議（2020年）において関連発表を行い、島嶼関係性のトランスボーダー地政学に基づく研究成果を英文国際誌や英文書籍を公刊（準備）することで国際的な認知を高めてきた。

研究成果の概要（英文）：This research has been promoted since 2018 with international collaborators from Japan and four other countries to build a "transborder geopolitics" that helps us understand socioeconomic transformations and changes in border management and territorial defense policies in the East China Sea islands and prospects for reducing international tensions in the region's countries. The first international conference was held in November 2019, but the pandemic hindered the development of sufficient research activities for about two years. However, as a result of extending the research period for one year from April 2023, with the help of international collaborators, we were able to proceed with (preparation for) the international publication of our research results, including holding a second international conference (April 2023), publication of and paper submission for two international journal special issues (both in March 2024), and preparation for the publication of an English book.

研究分野：政治地理学

キーワード：東アジア 島嶼 トランスボーダー 地政学 政治地理学

1. 研究開始当初の背景

本研究は、日本、中国、台湾、韓国によって囲まれる東シナ海上の辺境島嶼をめぐる越境的な相互作用に着目し、「トランスボーダー地政学」と呼ぶべき、国際緊張緩和につながる新しい世界観を提示することを目指した。

地政学とは、伝統的には、明確な国境によって囲まれ、分離された領域主権国家を前提に、その対立や均衡を考察する。本研究が唱える「トランスボーダー地政学」とは、そうした伝統地政学を超える一種のオルタナティブ地政学である。特に国際緊張の高まるユーラシア大陸東沿海部において、ヨーロッパのような陸上の領域国家だけを範型とするのは不十分であり、海洋と接する沿海国家や島嶼国家を含めて国際関係をとらえる新しい地理学的視座が必要である。

例えば、海域での領土問題は、領海（海上国境）自体よりも、辺境海域にある島嶼の帰属をめぐって展開する点で、ヨーロッパの領土問題とは異なる。日本が1879年に琉球王国を併合し、その後1895年に台湾を接収したように、国境線の変更は島嶼の包摂を介してなされる。また、1982年に採択された国連海洋法条約は、帰属島嶼を囲む領海基線から排他的経済水域（EEZ）を画定できるとしており、島嶼の位置はそこから広がるEEZの権益を担保するものとなる。よって、海洋と島嶼は各国/地域の利害が複雑に交錯・衝突する空間を作り出す。

とりわけ、東シナ海を取り囲む日本、中国、台湾、韓国は、植民地支配や冷戦の遺産を抱えるとともに、世界の政治経済をリードしており、それぞれの軍事力も米国の展開能力を含めて大きなものとなっている。東シナ海は独特の地政学的緊張をはらんでいるのである。

本研究の課題は、このような状況に対して「東アジア島嶼をめぐる国際関係の緊張緩和への学問的貢献は国際共同研究をとおしていかにして可能か」という問いに集約された。

2. 研究の目的

本研究は、こうした東シナ海の地政学的緊張のメカニズムを解明することを通して、国際的な緊張緩和に結び付く国境離島運営の可能性を実証的に明らかにすることを目的とした。そして、そうした学知を「トランスボーダー地政学」と呼び、本研究構成員の研究、教育、社会活動と研究成果の日中韓英四か国語での公表をとおして、東アジアを中心とする国際社会に普及させることを複数の国際会議の開催や参加、その研究成果の国際的発信を通して成し遂げることを目標とした。

3. 研究の方法

本研究は、研究代表者、同分担者、国際共同研究者からなる計9名から構成された（採択後に高誠晩が福本拓に交代、令和4年にGodfrey Baldacchinoが国際共同研究者に新規参加）、各研究者は5年間の研究期間（コロナ禍の影響で令和6年3月まで1年間延長）で、東シナ海の地政学的緊張のメカニズムを解明し、緊張緩和の可能性について検討することとした。すなわち、

研究開始にあたり、グローバル化による社会経済的流動と各国・地域での国境管理や領土防衛政策の変化との関係を把握に努めた（平成30年度）。

合同研究会を通して、国境離島の性格を国境管理・領土防衛政策の強化（再領域化）と緩和（脱領域化）のプロセスから便宜的に二分し、双方の並存と相互作用を意識しながら、研究を進めた（平成30～令和2年度）。

*再領域化のプロセス：中心・周辺関係、すなわち国家による辺境の従属化や軍事化は島嶼内においてどのように強化されているか。それは島嶼の政治的環境や社会経済的構造とどう関わり、それらをどのように変化させているか。

*脱領域化のプロセス：トランスボーダーな関係、すなわち観光や文化・経済活動を通じた越境交流はどのように展開しているか。それは島嶼の政治的環境や社会経済的構造とどう関わり、それらをどのように変化させているか。

以上の理論的視角を踏まえて、研究分担に沿って、各プロセスについて選定された島嶼地域（下記参照、ただしコロナ禍により、当初予定から大幅に変更）でそのプロセスがどのように発現し、島嶼社会を構成・維持し、変容させているかを実態調査した。各プロセスでの調査にはもう一方のプロセスの並存と作用にも十分留意した。プロセス別の担当者は最終的に以下ようになった（令和2～4年度）。

*再領域化のプロセス：琉球諸島（山崎）、馬祖列島（Hsu）、濟州島（福本）

*脱領域化のプロセス：対馬列島（花松）、琉球台湾関係（八尾）、金門島（Hsu）、濟州島（福本）

コロナ禍により日本、中国、台湾、韓国での各年度の現地共同調査を実施できなかったが、大阪公立大学（元大阪市立大学）において令和2年度と5年度に国際会議を開催し、これらの機会を通して各担当の研究成果を比較・総合し、国境離島の再領域化と脱領域化という両義的プロセスの動態がどのように島嶼社会を構成しているかを把握した（令和2～5年度）。以上の作業を踏まえ、特に脱領域化のプロセスとしての越境交流が対岸国との政治的緊張緩和にどのように貢献しているかを、再領域化のプロセスと対比させて解明した。そのうえで、

研究成果を東シナ海島嶼から国際緊張緩和を展望する研究成果(4.研究成果参照)としてまとめた。本研究の最終成果は、まず日本語と英語で公表し、東アジアを中心とする国際社会に普及させることにした(令和5年度以降)。

4. 研究成果

研究代表者及び研究分担者の個別研究成果は各年度の研究実績報告書を参照。

本研究を主体として開催した国際会議

East Asian Regional Conference in Alternative Geography (EARCAG) 4th Geopolitical Economy Workshop on East Asian Developmentalism(大阪市立大学学術情報総合センター、沖縄県沖縄島、2019年11月26日~12月1日、山崎企画・運営、Hsu、Liu 発表)

International Geographical Union (IGU) Thematic Conference on Island in Relations: Conflicts, Sustainability, and Peace(大阪公立大学学術情報総合センター、沖縄県沖縄島、2023年4月4日~9日、山崎企画・運営、福本、八尾運営補佐、Godfrey、Liu 発表)

本研究の国際共同研究員が複数参加した国際会議

Development, Environment and Peace Nexus (DEEPEN): Peace Making in Borderlands. United Nations Research Institute for Social Development, Cherwon Forum (PLZ Forum for Ecozoic Era 2020), South Korea(2020年12月5日、Park、Hsu、山崎参加)

本研究の研究分担者が企画ないし複数参加した国内会議

人文地理学会政治地理研究部会第26回・地理思想研究部会第130回研究会(人文地理学会大会部会アワー)「帝国日本のリミナリティ 植民地台湾と沖縄系移民」(奈良大学、2018年11月24日、福本企画、山崎コメント、花松出席)

人文地理学会政治地理研究部会第27回研究会「境界をめぐる実践 ボーダーコントロールとボーダーツーリズム」(大阪市立大学文化交流センター、2019年4月13日、山崎企画、花松発表)

蘭信三・山崎孝史科研費合同シンポジウム「あいだをつむぎだす 地域とエスニシティを越えて」(オンライン会議、2021年3月13日、八尾企画、山崎コメント、福本参加)

蘭信三編著『帝国のはざまを生きる』刊行記念シンポジウム(国際日本文化研究センター、ハイブリッド開催、2022年7月24日、八尾企画、山崎コメント、福本参加)

本研究を中心に編集もしくは構成メンバーを執筆者に含む書籍(刊行予定のものを含む)

山崎孝史編著『「政治」を地理学する 政治地理学の方法論』ナカニシヤ出版(2022年3月、山崎、福本、花松寄稿)

Yamazaki Takashi & Godfrey Baldacchino eds. *Relational geographies of islands in the Indo-Pacific: Environment, society, and politics*. (刊行準備中、山崎企画・寄稿、Godfrey、福本、花松寄稿)

本研究の構成メンバーを執筆者に含む英文雑誌特集(刊行予定のものを含む)

Taylor & Francis社 Geopolitics Special Section: contextualizing Borders in East Asia, *Geopolitics* 29(2): 359-470(2024年3月18日、山崎企画・寄稿、Hsu 寄稿)。

Taylor & Francis社 Geopolitics Special Issue: Rethinking relational geopolitics in contested islands and seas, *Geopolitics*(査読中、山崎企画)

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計17件（うち査読付論文 8件 / うち国際共著 1件 / うちオープンアクセス 9件）

1. 著者名 Yamazaki, Takashi	4. 巻 29(2)
2. 論文標題 Contextualizing borders in East Asia: an introduction	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 Geopolitics	6. 最初と最後の頁 359-373
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1080/14650045.2023.2276202	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 Yamazaki, Takashi	4. 巻 -
2. 論文標題 The COVID-19 pandemic and bio/geopolitics in Japan	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Stanley Brunn and Donna Gilbreath eds. COVID-19 and a World of Ad Hoc Geographies. Springer.	6. 最初と最後の頁 2327 ~ 2344
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山崎孝史	4. 巻 -
2. 論文標題 危険に対する空間的实践	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 竹中克行編著『人文地理学のパースペクティブ』ミネルヴァ書房	6. 最初と最後の頁 162 ~ 178
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 福本 拓	4. 巻 26
2. 論文標題 地域労働市場における外国人労働者の階層化の徴候 三重県北勢地域を 事例に	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 空間・社会・地理思想	6. 最初と最後の頁 57 ~ 58
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 山崎孝史	4. 巻 -
2. 論文標題 アジア太平洋地域における米軍基地	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 漆原和子ほか編『図説 世界の地域問題100』ナカニシヤ出版	6. 最初と最後の頁 144-145
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山崎孝史	4. 巻 9月号
2. 論文標題 書評 佐藤信著『近代日本の統治と空間 私邸・別荘・庁舎』（東京大学出版会，2020年）	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 日本歴史	6. 最初と最後の頁 90-92
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 福本拓	4. 巻 36
2. 論文標題 書評 福永真弓著『サケをつくる人びと 水産増殖と資源再生』	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 社会と倫理	6. 最初と最後の頁 212-216
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Yamazaki Takashi	4. 巻 11
2. 論文標題 COVID-19 pandemic in Japan: containment failed or successful?	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Geopolitica(s)	6. 最初と最後の頁 81~91
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.5209/geop.69163	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 Hanamatsu Yasunori, Yamashita Tomomi, Tokunaga Shota	4. 巻 -
2. 論文標題 Sustainable community co-development through collaboration of science and society: Comparison of success and failure cases on Tsushima Island	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Tetsukazu Yahara ed., Decision Science for Future Earth, Springer	6. 最初と最後の頁 133 ~ 166
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/978-981-15-8632-3_6	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 花松泰倫	4. 巻 103
2. 論文標題 多層的ボーダーに生きる苦悩と光 中露アムール国境への旅を通して	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 地田徹朗・柳澤雅之 (編) 『ユーラシア国境域の自然環境と境域社会の生活戦略』 CIRAS Discussion Paper (京都大学東南アジア地域研究研究所)	6. 最初と最後の頁 43 ~ 54
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 福本 拓	4. 巻 13巻3号
2. 論文標題 韓流ブーム下での大阪・生野コリアタウンの変容 - エスニック・タウンの価値と地域活性化	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 地理空間	6. 最初と最後の頁 231 ~ 251
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.24586/jags.13.3_231	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 蘭信三・李洪章・人見佐知子・福本拓・伊吹唯	4. 巻 15巻
2. 論文標題 方法としてのインタビュー	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 コスモポリス	6. 最初と最後の頁 65 ~ 93
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Yamazaki, Takashi	4. 巻 11
2. 論文標題 COVID-19 pandemic in Japan: containment failed or successful?	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Geopolitica(s)	6. 最初と最後の頁 81-91
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.5209/geop.69163	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Yamaazaki, Takashi & O'Loughlin, John	4. 巻 2nd edition
2. 論文標題 Superpower	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 International Encyclopedia of Human Geography	6. 最初と最後の頁 133-137
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/B978-0-08-102295-5.10492-5	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 山崎 孝史	4. 巻 23-7
2. 論文標題 地政学から「平和と環境」の政治地理学へ IGU政治地理委員会の35年	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 学術の動向	6. 最初と最後の頁 24-29
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 八尾 祥平	4. 巻 15
2. 論文標題 台湾の華僑華人研究	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 華僑華人研究	6. 最初と最後の頁 26-30
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 福本 拓	4. 巻 64-3
2. 論文標題 在日朝鮮人事業所の空間的分布と集住地区との関連性 1980年代以降の大阪を事例に	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 経済地理学年報	6. 最初と最後の頁 194-216
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計32件 (うち招待講演 9件 / うち国際学会 13件)

1. 発表者名 Yamazaki, Takashi
2. 発表標題 Contextualizing borders in East Asia: a reflection on the 2019 EARCAG-GPE Workshop
3. 学会等名 EARCAG-GPE 2023 Conference: The Global East as borderland, The Chinese University of Hong Kong (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 山崎孝史
2. 発表標題 都市 × 政治 × 地理学 都市政治への地理学的接近
3. 学会等名 人文地理学会大会、法政大学市ヶ谷キャンパス
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 花松泰倫
2. 発表標題 地域連携：終わりなき試行錯誤と地域との関わり方
3. 学会等名 UBRJ/EES 実社会のための共創研究セミナー / 名古屋外国語大学RINGSセミナー「大学教育における地域連携の実践と関係人口」、名古屋外国語大学名駅サテライトキャンパス
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 福本 拓
2. 発表標題 「意味のある」セグリゲーションの指標を求めて 空間的指標の特徴と利用可能性
3. 学会等名 日本人口学会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 福本 拓
2. 発表標題 大阪にみる日韓のグローバルな歴史 生野コリアタウンから考える
3. 学会等名 第6回北東アジア海域と人文学ネットワーク国際会議（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 山崎孝史
2. 発表標題 「政治」を地理学する 政治地理学の方法論を考える
3. 学会等名 人文地理学会大会地理思想研究部会・部会アワー（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 山崎孝史
2. 発表標題 コザの力 基地の街の記憶と魅力
3. 学会等名 日本学術会議地域研究委員会地域学分会（第25期第6回）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 花松泰倫
2. 発表標題 周辺 / 境界地域の歴史とダークツーリズム
3. 学会等名 北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター2022年度「スラブ・ユーラシア地域（旧ソ連・東欧）を中心とした総合的研究」共同研究班『サハリン・北海道・九州・韓国（朝鮮半島）をつなぐダークツーリズム』
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 福本 拓
2. 発表標題 日系ブラジル人・ペルー人による持ち家取得過程 三重県四日市市を事例に
3. 学会等名 日本地理学会秋季学術大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 八尾祥平
2. 発表標題 1920-50年代鳳梨産業轉移的全球史：以移居沖縄縣八重山地方的台灣墾殖者為中心（1920-50年代におけるパイン産業国際移転のグローバルヒストリー：沖縄県八重山地方の台湾人入植者を中心に）
3. 学会等名 中央研究院臺灣史研究所・林本源中華文化教育基金會「近現代臺灣經驗的交錯與流動學術研討會」（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Yamazaki, Takashi
2. 発表標題 De/Re-militarizing the Pacific island: post-/colonial manifestations of geopolitical forces in Okinawa, Japan
3. 学会等名 The 2021 American Association of Geographers Annual Meeting (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Yamazaki, Takashi
2. 発表標題 Theorization of “ Trans-Border Geopolitics ” in East Asia
3. 学会等名 The 34th International Geographical Congress, Virtual Paper Session (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 山崎孝史
2. 発表標題 地政学、応用地理学、学術倫理 「地政学ブーム」における地理学の視座
3. 学会等名 日本地理学会秋季大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 山崎孝史
2. 発表標題 「人間の領域性」再考 空間と権力への地理学的視座
3. 学会等名 人文地理学会大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Yamazaki, Takashi
2. 発表標題 Islands in relations: conflicts, sustainability, and peace in the East China Sea
3. 学会等名 The 2022 American Association of Geographers Annual Meeting, Virtual Paper Session (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 山崎孝史
2. 発表標題 日本におけるCOVID-19パンデミックと生ノ地政治
3. 学会等名 日本地理学会秋季大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Yamazaki Takashi
2. 発表標題 Inter-island borderity/territoriality in East Asia: from a Japanese perspective
3. 学会等名 Development, Environment and Peace Nexus (DEEPEN): Peace Making in Borderlands (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 八尾祥平
2. 発表標題 沖縄戦と慰霊を台湾から見つめ直す
3. 学会等名 大阪市立大学・地理学教室コロキウム
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 八尾祥平
2. 発表標題 あいだ の空間の生成についての試論 宮古島出身漁民の生活史を中心に
3. 学会等名 科研合同シンポジウム： あいだ をつむぎだすー地域とエスニシティを越えて (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 福本 拓
2. 発表標題 韓流ブームに伴うコリアタウンの変容と地域活性化への課題
3. 学会等名 地理空間学会大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Yamazaki, Takashi
2. 発表標題 Introductory session for the post-workshop field trip
3. 学会等名 East Asian Regional Conference in Alternative Geography 4th Geopolitical Economy Workshop in Osaka (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 山崎 孝史
2. 発表標題 「環境」と地政学の100年 成立・応用・批判・新しい地平
3. 学会等名 人文地理学会大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Yamazaki, Takashi
2. 発表標題 The spatial control of “vices” in the U.S. military outpost: value contradiction and its outcomes in quasi-settler colonialism
3. 学会等名 The 2019 American Association of Geographers Annual Meeting (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 花松 泰倫
2. 発表標題 対馬・釜山ボーダーツーリズムと境界地域社会の変容
3. 学会等名 東アジア学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 八尾 祥平
2. 発表標題 沖縄コザ事件
3. 学会等名 島嶼與大陸 民族主義與國家形成脈絡中的核心 / 邊陲關係 (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 八尾 祥平
2. 発表標題 讓我們從鳳梨談起 - 臺灣國際移動的「一步」返回與前進
3. 学会等名 國立成功大學人文社會科學中心 (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 福本 拓
2. 発表標題 第二次大戦後・在日朝鮮人の居住分布の変遷とその背景
3. 学会等名 經濟地理学会中部支部4月例会 (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 山崎 孝史
2. 発表標題 コザの力 基地の街の記憶と魅力
3. 学会等名 沖縄市中心市街地活性化協議会勉強会（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 山崎 孝史
2. 発表標題 「海洋国家日本」の批判地政学 『防衛白書』の検討から
3. 学会等名 人文地理学会大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Takashi Yamazaki
2. 発表標題 Maritime trade and geopolitics: the Indian Ocean as Japan's sea lane
3. 学会等名 The 25th International Political Science Association World Congress (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 山崎 孝史
2. 発表標題 地政学から「平和と環境」の政治地理学へ IGU政治地理委員会の35年
3. 学会等名 日本学術会議地球惑星科学委員会IGU分科会公開シンポジウム（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Yasunori Hanamatsu
2. 発表標題 “Co-producing” sustainable local community in collaboration between science and society: the case of Tsushima island
3. 学会等名 World Social Science Forum 2018 (国際学会)
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計12件

1. 著者名 阿部和俊、山崎孝史ほか43名	4. 発行年 2024年
2. 出版社 古今書院	5. 総ページ数 666
3. 書名 日本の都市地理学研究	

1. 著者名 ロバート・デヴィッド・サック、山崎孝史監訳	4. 発行年 2022年
2. 出版社 明石書店	5. 総ページ数 344
3. 書名 人間の領域性	

1. 著者名 山崎孝史編著、花松泰倫、福本拓共著	4. 発行年 2022年
2. 出版社 ナカニシヤ出版	5. 総ページ数 242
3. 書名 「政治」を地理学する	

1. 著者名 平井一臣、土肥勲嗣、宇野文重、池上大祐、渡邊智明、山田良介、花松泰倫、藤村 一郎、篠原 新、原 清一、遠山 隆淑、小幡 あゆみ、石川 捷治、尾内 隆之、いのうえ しんぢ、前田 隆夫	4. 発行年 2022年
2. 出版社 法律文化社	5. 総ページ数 256
3. 書名 つながる政治学〔改訂版〕	

1. 著者名 蘭信三、松田利彦、李洪章、原佑介、坂部晶子、八尾祥平共編、福本拓共著	4. 発行年 2022年
2. 出版社 みずき書林	5. 総ページ数 728
3. 書名 帝国のはざまを生きる	

1. 著者名 泉水英計編、八尾祥平共著	4. 発行年 2022年
2. 出版社 御茶の水書房	5. 総ページ数 380
3. 書名 近代国家と植民地性	

1. 著者名 福本 拓	4. 発行年 2022年
2. 出版社 京都大学学術出版会	5. 総ページ数 250
3. 書名 大阪のエスニック・バイタリティ	

1. 著者名 現代地政学事典編集委員会（副委員長 山崎孝史）	4. 発行年 2020年
2. 出版社 丸善出版	5. 総ページ数 888
3. 書名 現代地政学事典	

1. 著者名 現代地政学事典編集委員会（項目執筆者 花松泰倫）	4. 発行年 2020年
2. 出版社 丸善出版	5. 総ページ数 888
3. 書名 現代地政学事典	

1. 著者名 コロナトウスキ ヒェラルド、水内 俊雄、福本 拓	4. 発行年 2020年
2. 出版社 大阪市立大学都市研究プラザ	5. 総ページ数 308
3. 書名 「ジェントリフィケーション」を超えて 日独都市の住宅市場からみた地域の賦活	

1. 著者名 Robert C. Kloosterman, Virginie Mamadouh, Pieter Terhorst, Takashi Yamazaki, and 29 other authors	4. 発行年 2018年
2. 出版社 Edward Elger	5. 総ページ数 480
3. 書名 Handbook on the Geographies of Globalization	

1. 著者名 平井 一臣、土肥 勲嗣、宇野 文重、池上 大祐、渡邊 智明、山田 良介、花松 泰倫、藤村 一郎、篠原 新、原 清一、遠山 隆淑	4. 発行年 2019年
2. 出版社 法律文化社	5. 総ページ数 239
3. 書名 つながる政治学：12の問いから考える	

〔産業財産権〕

〔その他〕

<p>東シナ海島嶼をめぐるトランスボーダー地政学の構築 http://polgeog.jp/archives/2362</p> <p>IGU Thematic Conference on: Islands in Relations https://polgeog.jp/igu-tc2023/</p> <p>EARCAG-GPE Workshop in Osaka https://sites.google.com/view/earcag-gpe2019/home?authuser=0</p> <p>政治地理のページ（山崎孝史研究室） http://polgeog.jp/</p> <p>人文地理学会政治地理研究部会 http://polgeog.jp/studygroup/</p>

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	花松 泰倫 (Hanamatsu Yasunori) (50533197)	九州国際大学・法学部・准教授 (37113)	
研究分担者	八尾 祥平 (Yao Shohei) (90630731)	東京大学・大学院総合文化研究科・特別研究員 (12601)	
研究分担者	福本 拓 (Fukumoto Taku) (50456810)	南山大学・人文学部・准教授 (33917)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計2件

国際研究集会 The International Geographical Union (IGU) Thematic Conference on: Islands in Relations: Conflicts, Sustainability, and Peace	開催年 2023年～2023年
国際研究集会 East Asian Regional Conference in Alternative Geography 4th Geopolitical Economy Workshop in Osaka,	開催年 2019年～2019年

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関			
米国	ハワイ大学			
韓国	ソウル国立大学			
中国	中山大学	華南師範大学		
台湾	国立台湾大学			